

Title	学位授与式祝辞
Sub Title	A congratulatory address of a degree conferring ceremony
Author	黒川, 行治(Kurokawa, Yukiharu)
Publisher	慶應義塾大学出版会
Publication year	2018
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.61, No.1 (2018. 4) ,p.1- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	黒川行治教授退任記念号#論文
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-20180400-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-20180400-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 学位授与式祝辞

黒川 行治

平成19年度大学院学位授与式にあたり、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

博士または修士の学位を授与された皆さん、誠におめでとうございます。皆さんは学位を取得される過程で、時には、研究がうまくいかず挫折感を味わい、あるいは論文執筆の時間が足りず大いにあせったこともあったのではないですか。それらの厳しい経験も、本日、このように晴れやかな学位授与式において学位記を手になされ、すべては、懐かしい記憶となったことでしょう。再度、皆さんに心よりお祝いを申し上げたいと思います。また、これまでの皆さんのご努力、ご精進を温かく見守り、支えてくださったご家族の方々の献身的な協力を忘れることはできません。ご家族の皆様に対し、心よりお祝い申し上げます。

さて、皆さんは、これからの長い人生をどのように歩まれるのでしょうか。研究者として、教育者として、医師や弁護士などの職業的プロフェッションとして、あるいは、公務員や企業人として歩んでいかれるのでしょうか。本日は、プロフェッションという用語を「専門的研究の見識をいかした職業」とかなり広く解し、慶應義塾大学大学院の学位を授与された皆さんが、プロフェッションとしての人生を歩んでいかれることを前提に、僭越ではございますが、プロフェッション人生の先輩として、餞の言葉を贈りたいと思います。

まず、第1に、研究者としてのプロフェッションの使命です。私は、研究活動とは、文明社会の構成要素の1つとして、時間軸の進行とともに存在し、携わる人が変わっても連続として続いていくものだと思います。したがって、それぞれの研究者は、長く続く研究の歴史の中の一部を担当するものであり、「先達の研究を学び、参考にし、その研究水準を少しでも進歩させ、それらを後進の研究者に引き継ぐ」ことで、研究の持続的発展に貢献するのが使命であります。皆さんの使命は、時間軸上の研究活動、研究の実践活動の一部を担当することです。

第2は、どのような専門性を身に付けるのかの問題です。比較的若い方へのアドバイスですが、私が20歳代後半に、私の恩師のお一人（清水龍瑩先生）から賜った教えに、「T型ではなくπ型の研究生活を送るようにしなさい」という言葉がありました。1つの専門と幅広い教養ではなく、

2つの専門と幅広い教養を身に付けるように努力しなさいと言われるのです。2つの専門領域を持つように努力すると、それらの間が、時間の経過、知識の増加とともにやがて埋まっていくので、将来、太いT型の専門領域をもつプロフェッションになれる。恩師から私がいただいたこの言葉を皆さんにお伝えしたいと思います。<sup>1)</sup>

第3は、すでに社会的に確立している方、あるいは若者がある程度研鑽を積んで余裕が生まれたときに直面する課題、「専門知と公共性」の問題です。専門社会のみに生きるのではなく公共社会においても積極的に貢献していくこと、すなわち、自己の効用と公共の要求、自己の価値観と公共の価値観とを擦り合わせつつ、自己のもつ専門知識を公共社会にいかにして還元するかという課題です。専門社会のみに生きることは心地よく、また、公共社会への還元活動は自己犠牲を伴うことが多いのですが、是非とも、皆さんには、公共社会への貢献をお願いしたいと思います。

そして、最後に、プロフェッションの心構えについて、私の専門分野である会計学の知見をもとにお話したいと思います。プロフェッションの心構えとは、一言で言えば、「金銭報酬を目的として働くことはせず、さらに、組織との関係性ではなく、職務・役割との関係性を重視すること」であると思います。そこで、少し、先達の素晴らしい言葉を紹介しましょう。

ケアリー氏は、プロフェッションは「報酬よりもまずもって公衆へのサービスの提供に義務を負っている」と言っています。<sup>2)</sup> さらに1961年に *The Philosophy of Auditing* (『監査哲理』) を著し、会計学では有名なマウツ氏とシャラフ氏は、プロフェッションの倫理の前提となる人間社会の一般倫理について、次の4つを挙げています。<sup>3)</sup>

第1は、人間の行動が自分および他の人々に及ぼす影響についての知識を持つこと

第2は、自分が住む社会が必要とすること(もの)を理解すること

第3は、宗教的な法の尊厳を知り(人間の尊厳を重視すること)、義務を認め、自分が他の人々に要求することを、逆に自分が他の人々に施す義務があると常に認識すること(キリスト教の黄金律)

第4は、人間社会における倫理行為の規範を知ること

このような心構えは、プロフェッションが高度な倫理行為を達成するのに役立つと言うのです。

以上、大学院の学位を授与された皆さんが、広義に解したプロフェッションであることを前

1) 私は、工学研究科(管理工学専攻)博士課程在学中に商学部の助手に採用していただいたので、高橋吉之助先生(会計管理)、會田義雄先生(制度会計)、山榊忠恕先生(会計理論)と清水先生(経営学)の4人の教授に、毎週ご指導賜った。

2) マウツ, R.K. = H.A. シャラフ著-近澤弘治監訳(1987)『監査理論の構造』中央経済社, 324頁。Mautz, R. K. and Sharaf, Hussein A. (1961), *The Philosophy of Auditing*, American Accounting Association Monograph No. 6, p. 239.

3) マウツ=シャラフ著-近澤監訳(1987), 322頁。内容を箇条書きにし、用語を一部変更、さらに、( )内は加筆している。Mautz, R. K. and Sharaf, Hussein A. (1961), p. 237.

提に、研究の歴史の中の一期間を担当するという使命、 $\pi$ 型の専門領域を身に付けること、専門知識を公共社会へ役立てること、そして、金銭報酬を求めず、職務・役割との関係性を重視し倫理責任を引き受けるというプロフェッションの心構えについて、餞の言葉としてお話をさせていただきました。皆さんの人生がいぶし銀のような輝きを放つすばらしいものであることを心より祈念して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございました。

(附記)

2007年度慶應義塾大学大学院学位授与式（2007年9月28日）における私の祝辞の原稿を修正したものである。退任記念号のために論文を執筆してくださった皆様、退任記念号を手にとってくださっている皆様のほとんどは、私よりも一回りも二回りも若い方々であると思い、ご厚情への謝意とともに、年配者からのお祝い・餞の言葉のつもりで掲載させていただいた。